

1. アンケート調査の実施

1-1. 調査目的

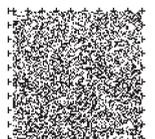
「住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業」の実施に係るモデル地域及びその他の地域における具体的なニーズを把握し、事業計画へ反映するため、アンケート調査を実施する。

1-2. 調査概要

調査概要を以下に示す。

表 1-1 調査概要

調査対象	平成 28 年 10 月 1 日現在の和泉市内在住で、18 歳以上の方
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成 28 年 11 月 29 日（火）～12 月 16 日（金）
対象者数	3,000 人
回収状況	回収数：1,531 回収率：51.0%
調査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. あなたのことについて 2. あなたの家族や生活状況について <ol style="list-style-type: none"> ①家族 ②お住まい 3. 家事について <ol style="list-style-type: none"> ①不自由を感じているか ②自分でしているか ③将来に不安を感じているか 4. 日常生活について <ol style="list-style-type: none"> ①外出 ②日常生活の楽しみ ③日常生活での困りごとや悩み ④相談相手 5. 地域とのかかわりについて <ol style="list-style-type: none"> ①近所づきあいや地域での助けあい・支えあい活動 ②地域の人へのサポートに対する利用意向 ③ボランティア活動等への参加の状況と意向 6. 自由意見



2. アンケート調査の結果

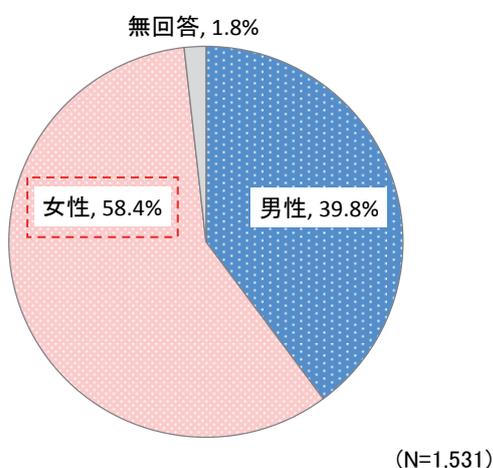
※グラフ中の標記 N は母集団の数を表している。

※調査結果の回答率は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

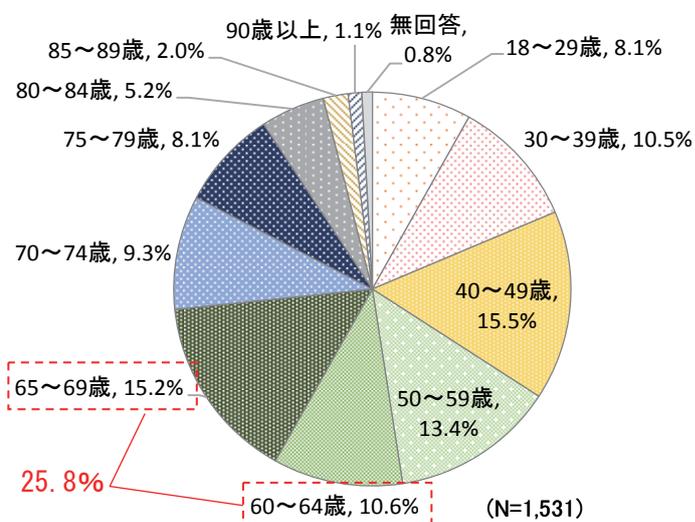
2-1. 回答者の属性

- 性別は、「女性」が 58.4%と半数以上を占める。
- 年齢は、「60 歳代」が 25.8%と最も高くなっている。また、65 歳以上で 4 割を占める。
- 小学校区では、「緑ヶ丘」(7.3%)、「青葉はつが野」(7.3%)、「鶴山台北」(7.2%) の割合が比較的高い。
- 職業では、「勤め人」(40.8%) が最も高く、次いで、「無職」、「専業主婦・主夫」と続く。

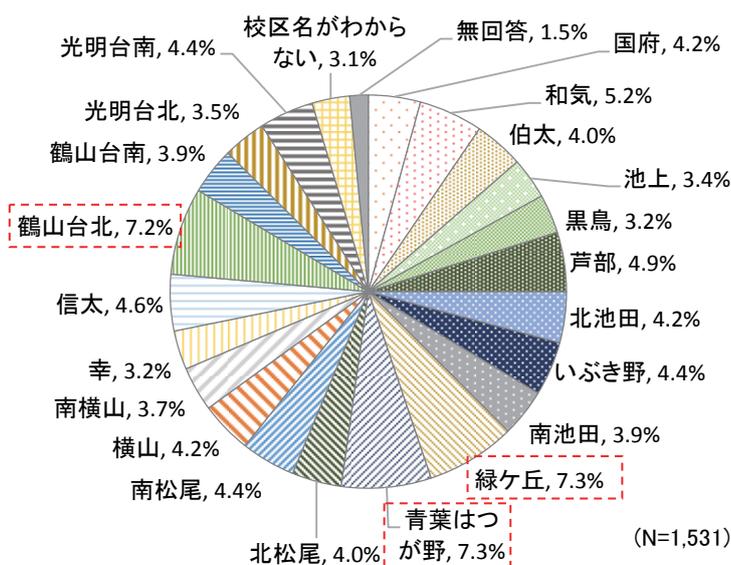
<性別 (問 1) >



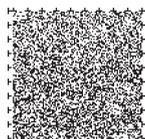
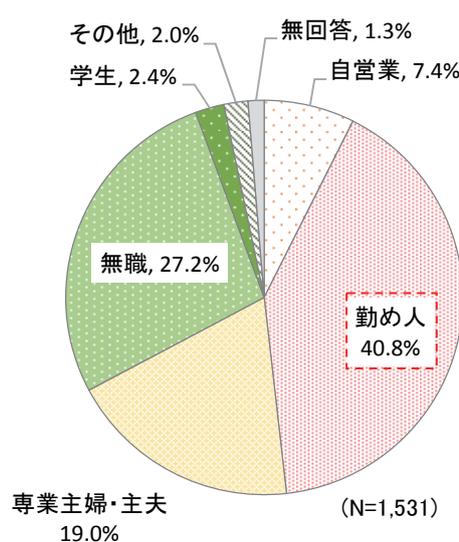
<年齢 (問 2) >



<小学校区 (問 3) >



<職業 (問 4) >

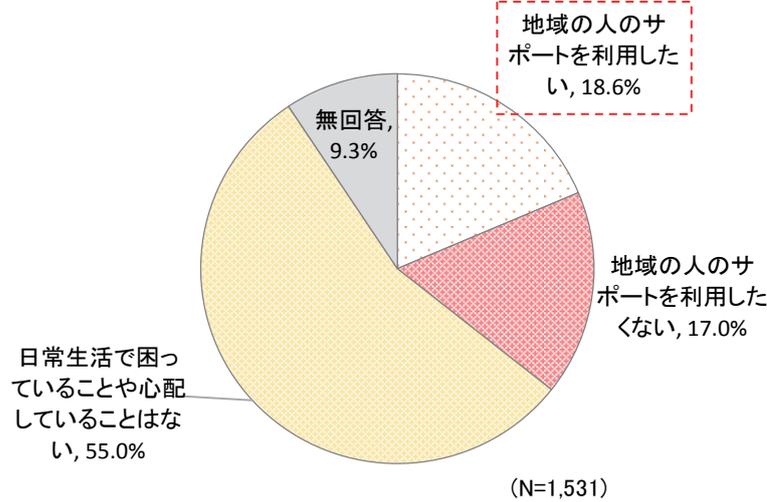


(3) 地域の人によるサポートの利用意向

1) サポートの利用意向

問23 あなたが日常生活で困っていることや心配していることについて、家族や親戚以外の地域の人のサポートを利用したいと**思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。**

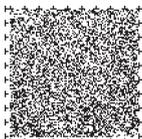
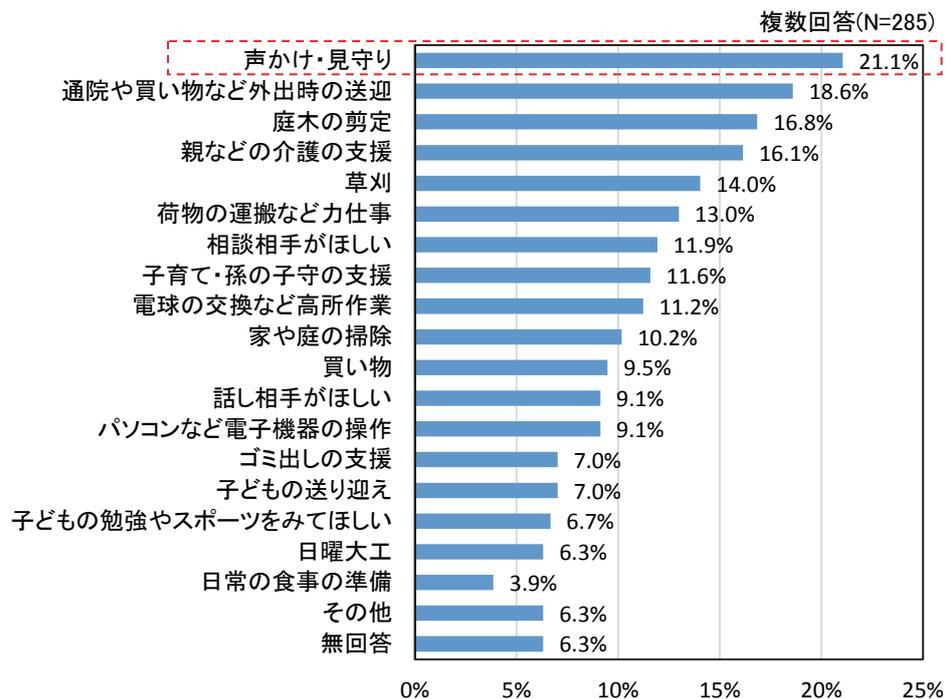
- 「地域の人をサポートを利用したい」とした人は18.6%と約2割を占める。
- 「日常生活で困っていることや心配していることはない」が55.0%と最も高くなっている。



2) 利用したいサポート

問24 あなたが日常生活で困っていることや心配していることの中で、家族や親戚以外の地域の人のサポートを利用したいと思うものにはどのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。<問23で「1.」を選択された方のみ>

- 利用したいサポートは、「声かけ・見守り」が21.1%と最も高く、次いで、「通院や買い物など外出時の送迎」(18.6%)、「庭木の剪定」(16.8%)と続く。
- 一方、最も利用意向が低かったのが「日常の食事の準備」で3.9%である。

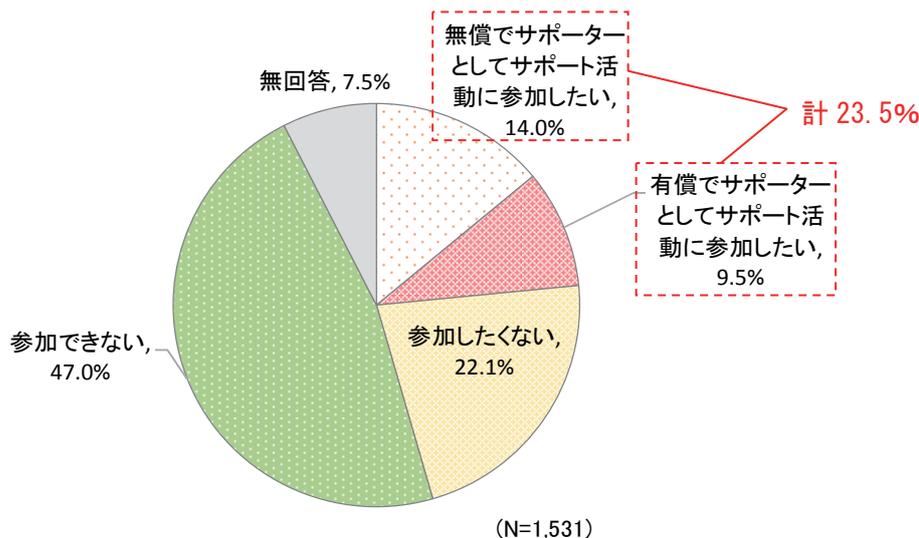


(6) 地域の人によるサポート活動への参加意向

1) 参加意向

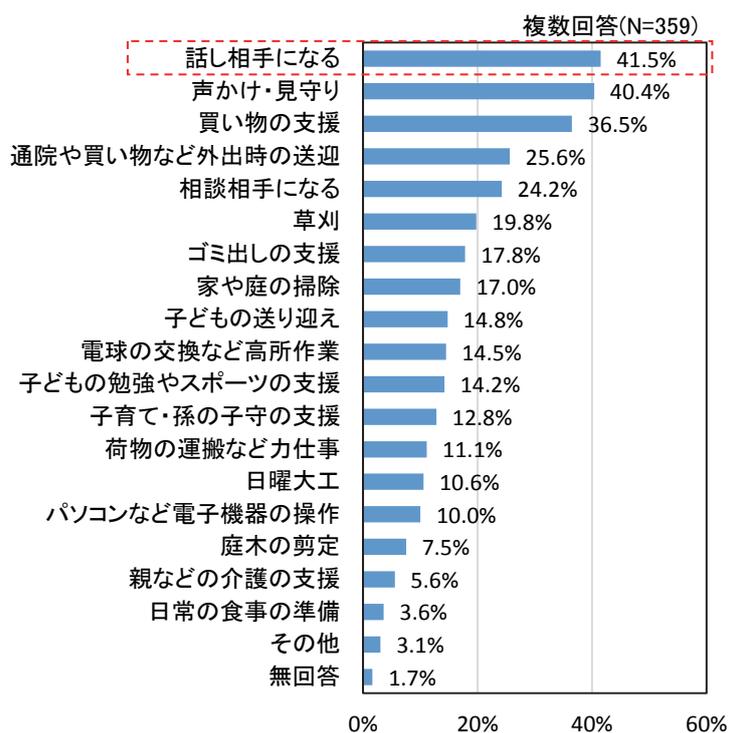
問29 今後、問24の選択肢で挙げたようなサポート活動を地域で行う場合、あなたは、サポーターとしてサポート活動に参加したいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- サポート活動に「参加できない」とした人が47.0%と最も高い。
- 「無償でサポーターとしてサポート活動に参加したい」と「有償でサポーターとしてサポート活動に参加したい」を合わせた参加意向のある人の割合は23.5%となっている。

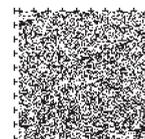


2) サポーターとして参加したい活動

問30 あなたは、どのようなサポート活動にサポーターとして参加したいですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。<問29で「1.」または「2.」を選択された方のみ>



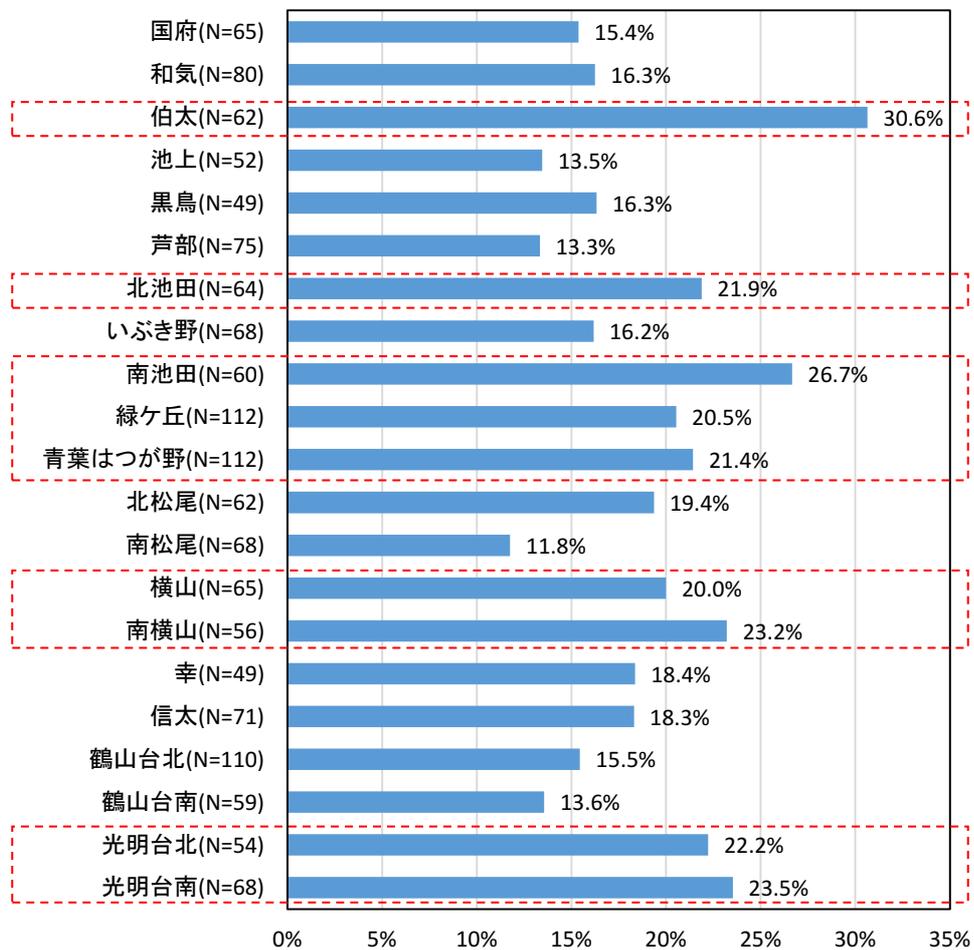
- 参加したいと答えた人が希望する活動内容は、「話し相手になる」が41.5%と最も高く、次いで「声かけ・見守り」(40.4%)、「買い物の支援」(36.5%)となっている。



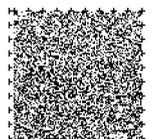
2) 小学校区別の傾向

- 地域の人をサポートを利用したい人の割合の高い小学校区は、「伯太」が30.6%で最も高く、次いで、「南池田」(26.7%)、「光明台南」(23.5%)と続く。
- 「伯太」は21校区中、日常生活の中で困りごとや悩みのある割合についても3番目に高くなっている(P21参照)。
- 地域の人をサポートを利用したい人の割合が全体の2割以上の小学校区は、21校区中、9校区である。

図11 地域の人をサポートを利用したい人の割合(小学校区別)



※地域の人をサポートを利用したい人の割合が2割以上の小学校区に枠を付けている

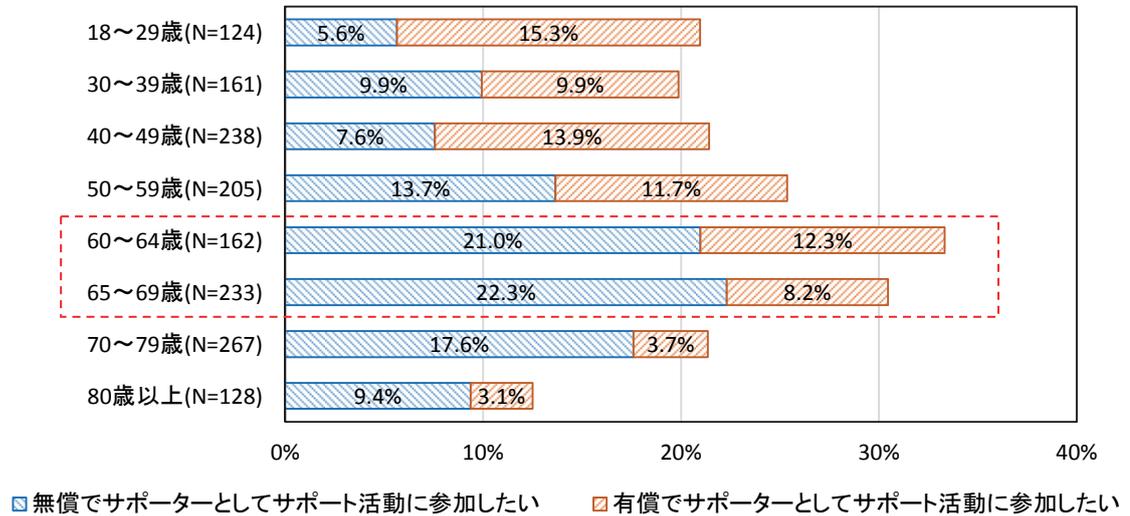


(5) 地域サポート活動への参加意向の高い属性（問 29）

1) 市全体の傾向

○地域サポート活動に参加したい人の割合（無償と有償あわせた割合）は 60 歳代で高い。（図 12）

図 12 地域サポート活動への参加意向（年代別）



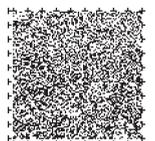
2) 小学校区別の傾向

○地域サポート活動に参加したい人の割合（無償と有償あわせた割合）は、「池上」で 36.6%と最も高く、次いで、「光明台北」（31.5%）、「緑ヶ丘」（28.6%）である。（表 6）

表 6 地域サポート活動への参加意向（小学校区別）

項目	割合											
	国府	和気	伯太	池上	黒鳥	芦部	北池田	いぶき野	南池田	緑ヶ丘	青葉はつが野	
無償でサポーターとしてサポート活動に参加したい	15.4%	17.5%	11.3%	23.1%	16.3%	10.7%	12.5%	10.3%	15.0%	13.4%	8.9%	
有償でサポーターとしてサポート活動に参加したい	9.2%	7.5%	11.3%	13.5%	4.1%	5.3%	9.4%	10.3%	6.7%	15.2%	11.6%	
参加したくない	27.7%	27.5%	14.5%	21.2%	16.3%	22.7%	26.6%	26.5%	30.0%	23.2%	22.3%	
参加できない	40.0%	41.3%	56.5%	30.8%	55.1%	49.3%	50.0%	44.1%	45.0%	46.4%	50.9%	
無回答	7.7%	6.3%	6.5%	11.5%	8.2%	12.0%	1.6%	8.8%	3.3%	1.8%	6.3%	
N	65	80	62	52	49	75	64	68	60	112	112	

項目	割合									
	北松尾	南松尾	横山	南横山	幸	信太	鶴山台北	鶴山台南	光明台北	光明台南
無償でサポーターとしてサポート活動に参加したい	14.5%	13.2%	13.8%	14.3%	6.1%	19.7%	15.5%	15.3%	18.5%	17.6%
有償でサポーターとしてサポート活動に参加したい	12.9%	8.8%	6.2%	5.4%	12.2%	7.0%	8.2%	11.9%	13.0%	8.8%
参加したくない	19.4%	25.0%	18.5%	8.9%	30.6%	11.3%	22.7%	33.9%	14.8%	17.6%
参加できない	50.0%	45.6%	50.8%	58.9%	42.9%	45.1%	45.5%	33.9%	48.1%	51.5%
無回答	3.2%	7.4%	10.8%	12.5%	8.2%	16.9%	8.2%	5.1%	5.6%	4.4%
N	62	68	65	56	49	71	110	59	54	68



3. 住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業の事業提案書

3-1. 趣旨

- 主として高齢者世帯等を対象に、日常生活で起こるちょっとした困りごとを地域住民が低額な対価で支援・解決する「地域住民どうしの助けあいの活動」を促進・支援する。
- モデル地域として3団体を選定し、事業を推進しつつ、その成果を踏まえて他地域へと波及させていくことを目標とする。

3-2. 期間

- 事業の期間は、平成28年度～平成30年度の3年とする。

平成28年度	<ul style="list-style-type: none">・住民ニーズ把握のためのアンケート調査の実施・モデル地域・団体の選定
平成29年度	<ul style="list-style-type: none">・モデル地域における事業の推進、活動の周知・人材の確保、育成のためモデル地域で研修の実施・新たに事業を実施する地域・団体の募集
平成30年度	<ul style="list-style-type: none">・新たに事業を実施する地域・団体における事業の推進・モデル地域の取り組みを他地域へ紹介し、住民相互の助けあい活動の裾野を拡大

3-3. 役割

(1) 活動団体の役割

- 活動団体とは、本事業における「地域住民どうしの助けあいの活動」の担い手をいい、事業実施の主体とする。
- 市に、事業の運営や助言等の支援を要請することができる。
- 活動地域における団体の活動の周知
- 人材の確保
- みんなで取り組む地域づくり協議会において、当事業への課題提起

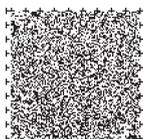
(2) 市の役割

- 活動団体の事業を円滑に進めるための支援を行う。
- 1団体につき各種1回限りの経費補助を行う。ただし、同一年度に限る。

【経費補助の内容】

- ①拠点確保への支援：活動拠点となる事務所の賃貸料
- ②備品整備への支援：活動に要する備品等の購入費
- ③広報への支援：事業内容の周知に係るチラシ等印刷費

- 人材育成のための研修を実施。
- 市全体への事業の周知、新たに事業を実施する地域・団体の募集
- 学識経験者、関係機関、関係団体及び行政で構成するみんなで取り組む地域づくり協議会を設置し、事業の協議検討を行う。



(3) 協議会の役割

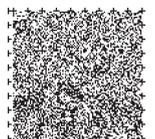
- ニーズ調査に関することを検討協議する。
- 事業の課題解決に向けた取り組みに関することを検討協議する。
- 取組の創出に関することを検討協議する。
- その他、事業に関することを検討協議する。

3-4. モデル地域・活動団体の選定

- モデル地域として3団体、新たに事業を実施する団体3団体、計6団体を選定する。
- 平成29年度は「鶴山台北校区」「青葉はつが野校区」「緑ヶ丘校区」をモデル地域とし、各地域の活動団体は、各地域の住民組織である「鶴山台北校区高齢者サポートセンター」、「あおばお助け隊」、「サポート緑ヶ丘営繕グループ」とする。

【活動団体の概要】

	団体名	活動対象と これまでの活動内容	アンケート結果から現在の活動内容 以外で校区住民のニーズが高いもの
1	あおばお助け隊 (青葉はつが野校区)	活動対象：高齢者 活動内容：庭の手入れ等（植木 剪定・除草）、家屋や住宅機器の 補修に関する小修理事業	外出時の送迎、子育て・子守の支援、 子どもの勉強やスポーツを見てほし い、声かけ・見守り・家や庭の掃除、 電球の交換など軽微な作業
2	サポート緑ヶ丘 営繕グループ (緑ヶ丘自治会)	活動対象：高齢者 活動内容：庭木の剪定、草引き、 日曜大工、障子・網戸の張り替 え、ごみの処理、犬の散歩など	外出時の送迎、相談相手、子ども の送迎、声かけ・見守り、電球の交換 など軽微な作業
3	鶴山台北校区高 齢者サポートセ ンター (鶴山台北校区)	活動対象：高齢者 活動内容：部屋の掃除、洗濯、 模様替え、家の周りの掃除、草 取り、簡単な剪定、大工仕事、 ペットの世話や散歩など	外出時の送迎、相談相手、子育て・ 子守の支援、声かけ・見守り、電球 の交換など軽微な作業、荷物の運搬 など力仕事



3-5. 新たに事業を実施する地域・活動団体の選定

○次の方法で新たに事業を実施する団体を選定する。

【活動団体の選定方法】

- ①公募形式とする。
- ②公募対象要件を以下のとおり設ける。
 - ・活動地域に拠点を置き、地域福祉活動を行う住民主体の団体であること
 - ・過去にこの補助金の交付を受けていないこと
 - ・同一事業で和泉市の他の補助金や助成金の交付を受けていないこと
- ③団体の活動地域は、概ね小学校区の区域を対象とする。

3-6. 支援対象者

(1) 支援対象者

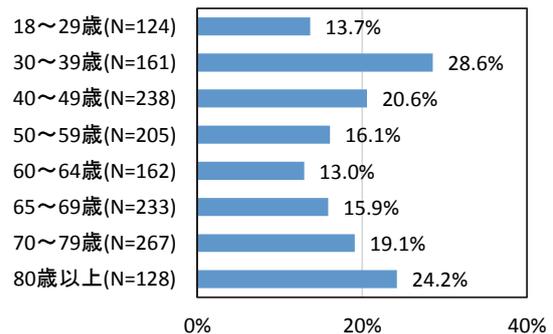
○モデル地域に在住する高齢者を中心にサポートを必要とする全ての人を対象とする。ただし、地域の実情に応じて活動団体が支援対象者の範囲を決定する。

参考：アンケート結果より

◆地域サポートを利用したい人の割合

- ・年代別では、「30～39 歳」で最も利用意向が高く、次いで、「80 歳以上」となっている。

地域の人のサポートを利用したい人の割合(年代別)



◆モデル地域における地域サポートを利用したい人の割合

- 鶴山台北 : 同校区回答者の 15.5%
- 青葉はつが野 : 同校区回答者の 21.4%
- 緑ヶ丘 : 同校区回答者の 20.5%

(2) 支援メニュー

○アンケート結果から次のような支援メニューが考えられるが、事業実施団体が支援可能なものをメニューとする。

市民のニーズの高い支援メニュー	
1	外出時の送迎
2	庭木の剪定
3	草刈
4	電球の交換など高所作業
5	声かけ・見守り
6	買い物代行
7	ごみ出しの支援
8	若年層の相談相手
9	子育て・孫の子守の支援
10	家族の介護の支援

